

本店 達成すべき目標と現状のギャップの整理

| 現状とのギャップ | | 達成目標 |
|---|---|---|
| <オンサイト・オフサイト対応共通> | | |
| <p>・緊急時対応が24時間365日確実に実施できること</p> | <p>24時間365日複合災害発生時においても対応できるように仕組みと資機材の整備を進める必要がある</p> <p><u>平日昼間帯</u> <組織> △習熟が進んできているが、情報共有などに課題 <仕組み> △機能班マニュアルの整備 <資機材> △各拠点の持参資機材の指定 等</p> | <p>○2019年度に達成 平日昼間帯における初動対応、要員参集後の緊急時対応が実施できる仕組みの有効性を検証（プロセス目標）【達成】 ○2020年度に達成 平日昼間帯における初動対応、要員参集後の緊急時対応を確実に実施（パフォーマンス目標）【未達】 ○2021年度に達成（再） 平日昼間帯における初動対応、要員参集後の緊急時対応を確実に実施（パフォーマンス目標）</p> |
| | <p><u>夜間・休日帯（24時間365日、複合災害発生時）</u> <組織> △夜間休日における対応力の向上 <仕組み> △休日夜間想定への対応体制 △要員ローテーションの対応体制 △通信障害発生時の対応 △人員把握の方法 <資機材> △各拠点の持参資機材の指定 （通信障害発生時の対応を踏まえた資機材の拡充等）</p> | <p>○2022年度に達成 緊急時対応が休日、夜間に確実に実施できる仕組みを検証（プロセス目標） ○2023年度以降に達成 緊急時対応を休日・夜間に確実に実施（パフォーマンス目標）</p> |
| <p>・4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時においても確実に対応できること</p> | <p>総合訓練及び本部運営習熟訓練にて検証しているが、同時被災時の情報錯そう等の号機別対応に課題がある</p> <p><組織> △複数号機発災時における対応力の向上 <仕組み> △情報錯そう時の情報収集、共有等の仕組み <資機材> △COP等の改善</p> | <p>○2019年度に達成 4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に対応できる仕組みの有効性を検証【達成】 ○2020年度に達成 4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に確実な対応を実施【未達】 ○2021年度に達成（再） 4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に確実な対応を実施</p> |

| | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 3, 4号機運転、5号機停止状態での複数号機同時発災時においても確実に対応できること | <p>運転号機が複数号機同時発災した場合においても対応できるように仕組みと資機材の整備を進め、対応能力を向上させる必要がある。</p> <p><組織> △複数号機発災時における対応力の向上</p> <p><仕組み> △情報錯そう時の情報収集、共有等の仕組み</p> <p><資機材> △資機材に不足が無いかな検証</p> | <p>○ 2023年度以降に達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3, 4号機運転、5号機停止状態での複数号機同時発災時においても確実に対応できる仕組みの有効性を検証 ・ 3, 4号機運転、5号機停止状態での複数号機同時発災時に確実な対応を実施 |
| <p><オフサイト対応></p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民避難支援体制の整備・充実 | <p>原子力本部が担う機能班活動及び3社間協定等に基づく活動の具体化を進める</p> <p>※緊急時対応の実効性向上に向けた体制の整備・充実は、作業部会における検討の進展に合わせて実施する</p> <p><仕組み> △オフサイトに係る機能班マニュアルの整備</p> | <p>○ 2019年度に達成</p> <p>3社間協定に基づく技術派遣者との連携を検証【達成】</p> <p>○ 2020年度に達成</p> <p>オフサイトに係る機能班マニュアルの検証</p> <p>3社間協定等に基づく住民避難活動支援（出発準備まで）の連携方法の検証【達成】</p> <p>○ 2021年度に達成</p> <p>3社間協定に基づく住民避難活動支援（出発以降）の連携方法の具体化</p> <p>原子力事業者支援本部の設営・運営に係る仕組みの検証</p> <p>○ 2022年度に達成</p> <p>3社間協定に基づく住民避難活動支援の連携方法に関する改善事項の検証</p> |

浜岡原子力発電所 達成すべき目標と現状のギャップの整理

| 達成目標 | 現状と (△) ギャップ | 今後の達成目標の設定 |
|---|--|---|
| <p>1. 4号重大事故等対応が、24時間365日確実に実施できること (パフォーマンス目標)</p> | <p>『平日昼間』～2015より訓練着手 ・シナリオ固有の事故状況判断等に係る大きな課題は抽出されておらず、反復して網羅的にシナリオを扱った訓練を実施 <組織>○ 継続的改善フェーズ <個> △ 本部運営：継続的改善フェーズ、現場：引き続き力量確保に向けた取り組み実施 <仕組み/資機材>○ 継続的改善フェーズ</p> <p>『休日・夜間』～2018より訓練着手 ・2018年度に休日・夜間発災の教育訓練を実施し、少なくとも代表チームでの対応はできる仕組みであることを確認。大規模損壊対応を考慮した運用検討が必要となったことにより、当直および初動対応要員の運用変更後に仕組みの検証 <組織>△ 未検証 <個> △ 本部運営：水平展開要、現場：引き続き力量確保に向けた取り組み実施 <仕組み/資機材>○ 継続的改善フェーズ</p> | <p>●2019年度に達成済(以降維持) 4号重大事故等対応における本部運営の力量確保 <個> (パフォーマンス目標) ●2024年度に達成(以降維持) 4号重大事故等対応における現場対応の力量確保 <個> (パフォーマンス目標)</p> <p>●2024年度に達成(プロセス目標：2022年度) 休日夜間における4号運転状態での確実な対応の実施<組織>(プロセス目標/パフォーマンス目標)：複数号機同時発災対応にて同時検証 ●2025年度に達成(プロセス目標：2023年度) 4号運転状態での初動における当直者の確実な対応の実施 <組織/個>(プロセス目標/パフォーマンス目標)</p> |
| <p>2. 4号大規模損壊時の初動において、確実な対応が実施できること (パフォーマンス目標)</p> | <p>・2019年度に大規模損壊対応手順(訓練用)としてEHGを整備し、2020年度に有効性を検証。 <組織>△ 未検証 <個>△ 組織検証後展開 <仕組み/資機材>○ 手順整備済、仕組み有効性検証実施</p> | <p>●2025年度に達成(プロセス目標：2023年度) 大規模損壊時の初動において確実な対応の実施 <組織/仕組み/資機材/個>(プロセス目標/パフォーマンス目標)</p> |
| <p>3. 4号運転、他号機停止状態での複数号機同時被災時に、4号重大事故等対応が確実に実施できること (パフォーマンス目標)</p> | <p>『平日昼間』～2018より訓練着手 ・総合訓練にて検証をし、同時発災時の確実な対応の実施を確認 <組織>○ 継続的改善フェーズ <個> ○ 継続的改善フェーズ <仕組み/資機材>○ 継続的改善フェーズ</p> <p>『休日・夜間』～2022年度より訓練着手予定 <組織>△ 未検証 <個> △ 組織検証後展開 <仕組み/資機材>○ 継続的改善フェーズ(平日昼間にて確認済)</p> | <p>●2020年度に達成(以降維持) 4号運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時における確実な対応の実施 <個> (パフォーマンス目標)</p> <p>●2024年度に達成(プロセス目標：2022年度) 休日・夜間における4号運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時における確実な対応の実施<組織>(プロセス目標/パフォーマンス目標)</p> |

(継続的改善フェーズ：再稼働までに達成すべき目標を達成した以降も訓練パフォーマンスを通じてその状態が継続していることを確認するプロセス)